

景観協議(変更)に係る事業者との調整事項

(横浜スタジアムの増築・改修計画)

東京 2020 オリンピックパラリンピック野球競技のメイン会場である、横浜スタジアムでは、2019年度の完成を目指し、現在増築・改修工事が進められています。

公園利用者やスタジアム来場者の利便性・快適性を向上させるため、施設のレイアウト変更を行うこととなり、それに伴い、一部外観デザインを変更することとなりました。

今回変更する場所は、日本大通り及びみなと大通りとは反対側の横浜公園南の角で、スタジアムや公園のメインエントランスの裏側にあたります。

これまでの景観協議内容を踏襲しながら、以下の3つの点を重点的に調整してきましたので、市の考え方を示します。

1. 圧迫感の軽減について

当初計画は、それまであったレンガタイルによるデザインを踏襲するものでした。

本計画では、スタジアムの基調色である白を用いた新たなデザインとすることで、スタジアムの入口の一つとして一定の存在感を持たせつつも、ガラスなどによる透明感の創出や壁面の緑化等の工夫で圧迫感を軽減したものとなるよう調整してきました。

2. デッキ上部へ歩行者を誘因する設えの工夫について

今回の増築・改修計画の特徴の一つとして回遊デッキの整備が挙げられます。回遊デッキは、横浜公園に新たな価値を与えるものとして捉えており、その有効活用手法を考えるとともに、デッキに上りたくなるような工夫も必要です。

これまでこの部分の階段には、利用者がほとんどいませんでしたが、本計画では、道路から内部が望見できる設え、階段に沿った展示物の設置などにより、デッキ上部へ歩行者を誘因する設えの工夫を行っています。

3. 緑の配置について

デッキや新たなエントランスの整備により、これまで以上に横浜公園の魅力が増すこととなりますが、公園の入口として豊かな緑を感じられる工夫も必要です。

本計画では、目に見える位置に緑を効果的に配置し、公園としての景観形成に配慮しているものと考えられます。